

＊幸せのじかん＊

読む人の幸せを心に願って作る

# 喜びの タネまき 新聞

No.564

年の瀬の近江町市場〈石川県金沢市〉

江戸の昔から、金沢の食を支える「近江町市場」。日本海の新鮮な海の幸や加賀野菜などが豊富に揃います。年の瀬ともなると所狭しとカニが並び、正月の買い物客の活気で北陸の寒さも吹っ飛んでしまうほどの賑わいです。



近江町市場の向かいに鎮座する氏神「市姫神社」

〈ダスキンミュージアム〉  
創業の感謝

二〇二五年一〇月にダスキン創業の地である大阪の吹田市に「キレイ」と「おいしい」をテーマにしたダスキンミュージアムがオープンしました。思えば五三年前（一九六三年）、この地で中古の洗濯機一台と乾燥機一台で産声を上げたのがダスキンの始まりでした。

当時はお客様にダスキンの商品を説明しても「そうきんを借りる」ということを理解していただけませんでした。地道に活動を続け、少しずつお客様係が増えるとともにダスキンの商品をご利用いただけるお客様も増え今日に至っています。また、一九七一年には創業地の隣に「ミスタードーナツジャパンレーニングセンター」が誕生し、ここを巣立った多くの卒業生によってお客様に喜ばれる店や商品の提供を行ってきました。

このダスキンミュージアムは、創業者が「お客様にキレイを体感していただき、手作りドーナツを経験していただくことで改めてお礼ができるのですよ！」と私たちに語りかけ、創業の地でのオープンを導いたのではないかと思います。

自分を産んでくれた両親に感謝し親孝行する気持ちと同じように、ダスキンを生んでくれた創業者に感謝し、創業者が常に望んでいた「多くの人が集まる機会を持つこと」「お客様に喜びのタネまきをすること」を実践できるダスキンミュージアムにしていきたいと思います。

株式会社ダスキン社長

山村輝治





日本は  
ひろいな  
おいしいな

# 島根県奥出雲町 元気女子が 自由に舞う里



稲田神社は、出雲大社の主神・大国主命(おおくにぬしのみこと)の母とも言われる稲田姫のご神体

乱行に高天原を追放されたサノオは、奥出雲の地に降り立つ。そこで、美しい稲田姫に一目惚れするが、娘はもうすぐ恐ろしいヤマタノオロチの生け贄になってしまおうと言う。そこで、サノオは娘をめぐること引き換えに、オロチ退治を申し出て、みごとに成し遂げる。夫婦となった二人は、共に出雲の国の礎を築く…。

この有名な神話の町に、元気な女性たちによって新たな「神話」が誕生しようとしています。

## 枠を超えたつながりで

奥出雲町は、出雲市から車で約1時間ほど内陸へ入った自然豊かな町。ここで生まれ育った内田咲子さんは、高校卒業後、刺激を求めて、広島、大阪、ニューヨーク、イギリスと移り住んだ末、奥出雲が一番だと気付きUターンした元気女子です。

「ここに住む人たちは、この町には何もないと言います。でも、外から見直すと、こんなに豊かな町はありません。美しい自然とその恵み。古事記や日本書紀に語られる神聖な歴史。『たたら製鉄』や『雲州そろばん』など伝統の技術。すごい！残したい！伝えたい！そう思っていたら、自然と同じ思いの女性たちが集まってきて、楽しいことしようよ！ということになりました。それが『奥出雲女子会』の始まりです。」

集まったのは内田さん同様、元気女子ばかり。しかも、UターンやIターン者が多かったようです。「そもそも、みんな活躍の場を持っていきます。だから、それぞれの場で町を盛り上げられるよう、相談し合ったり、アイデアを出し合ったり、ゆるくつながり合うのが私



稲田神社で行われる巫女体験では、装束を身につけるだけでなく、所作や神社の由緒なども学べる



内田咲子さん

「幸せな風景」を紹介してくれたみなさん

### 「奥出雲女子会」のみなさん

イベントプロデュース会社、雲州そろばん協業組合、和菓子店、役場、レストランなど、それぞれの活躍の場を生かしながらみんな町を盛り上げています。

## 島根県奥出雲町 幸せな食べ物 × 幸せな風景



美しさと実用性を併せ持つ雲州そろばんは180以上の工程を経て生まれる

たちのスタイルです。」

そのスタイルが功を奏して、さまざまなルート、人脈が広がった彼女たちの活動は、町中を巻き込みながら、着々と実を結びはじめています。最近では過疎化が進むこの町に、移住を視野に入れた観光客が訪れることもあるのだそう。彼女たちが新たな「神話」を生む日も近いのかもしれない。

## 海苔雑煮と小豆雑煮の作り方

島根県のお雑煮の主役は、小豆、黒豆、海苔、蛤、錦糸卵など、エリアによって実にさまざま。出雲・奥出雲だけでも、磯の香りの海苔雑煮と甘い小豆雑煮があります。家庭によっては2種類とも作って楽しむこともあるそうです。



①



700ccの水に、いりこ2〜4尾を入れて火に掛ける。沸騰したらいりこを取り出し、薄口しょうゆ大さじ3と砂糖大さじ1を入れて少し煮立たせる。

②



別の鍋で、餅を好みの堅さにゆでる。乾燥海苔10gは日本酒に浸して戻す。

③



椀に①を注ぎ、ゆでた餅を入れ、その上に戻した海苔を盛る。

材料 (各約4人前)	
丸餅	お好み
◎海苔雑煮	
水	700cc
いりこ	2〜4尾
薄口しょうゆ	大さじ3
砂糖	大さじ1
乾燥海苔	10g
日本酒	適量
◎小豆雑煮	
水	400cc
小豆	80g
砂糖	大さじ3
塩	少々

①



小豆80gをたっぷりの水で粒が崩れすぎない程度に下ゆでする。柔らかくなったらゆで汁を捨て、水400cc、砂糖大さじ3、塩少々を加え、味が馴染むよう10分程度煮る。

②



別の鍋で、餅を好みの堅さにゆでる。お椀に小豆の汁を少し入れ、その上にゆでた餅を入れ、さらに上から小豆を盛るよう汁を注ぐ。

### 小豆雑煮

「幸せな食べ物」の作り方を教えてくれたみなさん



いきいきアグリ馬木加納さん・松島さん・勝部さん  
地元食材を使った煮しめや仁多米の餅、笹巻きが人気の仕出しグループ。50〜70歳代の元気な女性たちがイキイキと活動しています。



門倉多仁亜の  
丁寧なし  
丁暮らし

第五話

おもてなし

の極意

日々の忙しさに流されて、「あなた自身の時間」の大切さを忘れていませんか？  
なにげない日常を丁寧な暮らしと一緒にごく、人生を有意義に過ごすコツ。シンプルでありながら豊かな暮らしと一緒にごく、門倉多仁亜さんと一緒に『丁寧なし』について考えてみませんか？

わが家を感じてもらおう  
おもてなし

慌ただしいけれど、ワクワクする季節がやってきました。ドイツではクリスマスイヴから数えて4週間前から準備期間「アドヴェント」が始まります。4本のキャンドルを用意して、1週間ごとに1本ずつ火を灯し、クリスマスへのカウントダウンをするのですが、その間はゲストをお迎えすることも多くなります。

体験していただく感覚でお迎えています。私がお茶や食事の準備をしている間も気軽にコミュニケーションがとれるようキッチンオープンにしたり、時には準備を手伝ってもらったり。

お出しする料理も、わが家のいつもの食事を基本に、品数はそのまま、メインのお料理を少し豪華にして、テーブルも少しドレスアップします。よくお出しするのが、ローストビーフ。夫にバーベキューコンロでローストしてもらっている間に、私が付け合わせやサラダを作ります。一人で準備するのは大変ですが、これだと仕事を分担することができますので、おすすめです。



この日のおもてなしメニューはローストビーフ、ポテトのソテー、サラダ。テーブルクロスやキャンドルが特別感を演出している



彩り豊かなサラダでシンプルな料理に華を添える



ローストビーフは、庭でバーベキューコンロを使ってロースト

椅子が生み出す居場所

ますから、これも大切なおもてなしのひとつです。

以前、ドイツに住む祖父の

ガールフレンドの家に、私と妹が招かれて行った時のことです。昼食をいただいた後、しばらくすると彼女が「じゃあ、今から少しプライベートな時間」と言って、祖父はリビングのソファ、彼女はダイニングのソファでお昼寝。私は外が見えて本を読むのに良さそうな椅子、妹はダイニングの椅子を勧められて、1時間ほどそこで、それぞれの時間を過ごして、またお茶の時間を一緒に過ごすということになりました。

そんな広い家ではないので、完全なプライベートが確保できるわけではないのですが、椅子がそれぞれの居場所を作ってくれます。その時、座る場所がたくさんあるのついでに、私も思いました。だから、わが家にも座る場所、椅子がたくさんあります。

私と夫も、それぞれにお気に入りの椅子があります。東京からやって来る父や母にも、お決まりの椅子があります。その他のゲストにも、そんな風に椅子を使ってもらえたら

いいなと思っています。みんなと一緒の時間は楽しいけれど、ずっとだと疲れてしまいますから、そういう場所を作っておくことも私流のおもてなしなのです。



お茶や食事の準備をしながらお客様と気軽にコミュニケーションがとれるようキッチンをオープンに

おもてなしを意識して  
空間を仕切る

鹿児島の家へは、東京からのお客様も多いので、泊まりで来られる方も少なくありません。そのため、ゲストルームを用意しています。

ドイツ人の母がよく「日本の家はゲストがお風呂から上がった後、リビングを通らないと寝室に行けない」と残念そうに言っていました。だからという訳でもないですが、鹿児島の家は、廊下をはさんで右がパブリック、左がプライベートとなるよう空間を分けて、プライベートが保てるようにしました。

どんなに気心の知れた人でも、やはりお互いに気は使



玄関から真っすぐにのびる廊下。右がパブリックエリア、左がプライベートエリア

Profile

門倉 多仁亜さん (かどくら たにあ)

1966年生まれ。料理研究家。日本人の父とドイツ人の母を持つ。日本、ドイツ、アメリカなど転々と移り住み、帰国後はじめた料理教室が人気に。現在は東京を基盤に月に一度、自宅のある鹿児島へ帰る暮らしを続けている。著書に「ドイツ式心地よい住まいのつくり方」(講談社)などがある。



お父様お気に入りの椅子



ご主人お気に入りの椅子



門倉さんお気に入りのソファ





### わが家のプチリフォーム

熊本県苓北町 梅本健三さん

築90年のわが家はあちこち傷みが激しい。父の代から悪いところの手直しを繰り返してきたが、その父も亡くなり、母も高齢で入院している。そんな中、4人の子どもたちも社会人となり、長女・次女の結婚に際してクーラーを取り付けたり、畳の表替えをしてきた。今度は三女が結婚することになり、相手方のご両親が来られるということで、障子20枚を妻と2人で貼り替えた。

また、長女が第2子の産後の養生に来ることに、洗面所の床の張り替えと台所の出窓の改修を行い、洗面化粧台と流し台を買って替えた。おかげで妻は上機嫌。この調子でいくと、長男の結婚の時はどうなるのだろうか。心配？の種は尽きない。

★ 幸せのリフォームなら何度でもしたい。



### ありがたい電子レンジ

佐賀県鹿島市 光安道子さん

電子レンジが故障しました。購入から3年しか経っていないのに…。ほとんど「あたため」に使うため、寒い時期、冷えたご飯では箸が進みません。電気屋さんで「貸し出し用、持ってきてきましょうか」と言ってくれましたが、2〜3日で修理できるだろうと思いい、「大丈夫です」と返事しました。

チャーハンにお茶漬け、雑炊とがんばってみましたが、5日目でギブアップ。貸し出し用をお願いした。電子レンジがなかった頃は、電子レンジで温めるので自分好みの温度で使えること、繰り返し使えてエコなこと、捨てる時は中身が土に還ることで、冷えやすいお腹や腰、ふくらはぎに当たるとじんわりと温まってきました。

★ 普段、何気なく使っている電子レンジに感謝！



### 手作りカイロ

福井市 中嶋裕子さん

今年は豊作で知人から玄米を4俵もいただきました。それを使って自然派カイロを作ることになりました。このカイロの良いところは、電子レンジで温めるので自分好みの温度で使えること、繰り返し使えてエコなこと、捨てる時は中身が土に還ることで、冷えやすいお腹や腰、ふくらはぎに当たるとじんわりと温まってきました。

先日、五十肩の義母にこのカイロをプレゼントしました。使ってみると肩の痛みが和らいだので、足や腰が痛い友人にもあげたいと言われました。今度はカラフルな柄で何個か作る予定です。北陸の冬はとて寒いので、このカイロを使って元気に冬を乗り越えたいと思っています。

★ ご友人からも喜びの声が聞けるといいですね☆

### 燈々無尽

#### 尊く生きよ

自己の生命を敬愛すべし、  
使命を尊重すべし。  
自分という人間は、  
この世の中に、  
たった一人、  
かけがえのない生命だ。  
尊く生きよう。  
そうして、  
生きている限り、  
自分には、  
与えられた使命があり、  
それを果たさなければならぬ。

鈴木清一



### 家計簿

三重県鈴鹿市 平野なぎささん

結婚してからずっと家計簿をつけているが、気に入ったものが見つからない。空白が目立つ家計簿に嫌気がさし、それならと自分で作ってみることにした。大学ノートに1年分の線を引き、日付を書き込む。次に項目作り。大きっぱな私は家計簿の欄は最小限にし、下の方に日記も書けるように大きくスペースを取る。そして最後にインデックスを付けて完成。

これらは単調だが根気がいる作業。しかし、完成した時の満足感は何にも代えがたい。なんでも書き込める家計簿は、イラストもあり賑やか。読み返しても楽しい。手作りの良さは自分の思いどおりに行けること。今回で7冊目になった。

★ 日記も書ける家計簿、グッドアイデアです！



### 家族

岩手県一関市 千葉和子さん

私は学校サポーターとして小学校に勤務しています。冬休みに入るちょっと前、ある児童に「冬休みになるとしばらく会えないね。先生、寂しいなあ。いつでも元気な顔を見せて学校に来てね」と話しかけました。

すると、その子は「先生、家族いるでしょ？家族のために毎日ごちそう作ったら、ぜんぜん寂しくないよ、大丈夫」と、私の手をポンポンと叩くのです。

そうだね。そうだよ。毎日、お料理を作っていたら寂しくないんだよ。忘れかけていた家族のことを、その子に教えられました。今でもお台所に立つと、その言葉が思い出されます。

★ 子どもの言葉に気づかされたり、癒されたり…。



### 列車

岩手県盛岡市 工藤真利子さん

孫の家は線路のすぐ裏にあります。「もうすぐS」が来る時間だよ」と言われ外に出ると、遠くから汽笛の音と白い煙が見えました。目の前に来ると想像以上の迫力で、機関士さんが私たちに気づき、大きく汽笛を鳴らし手を振ってくれました。

走り去った後、孫が3歳の頃のことを思い出しました。2人で散歩していた時に列車が通り、「列車って何で走ってるんだっかな」と私がつぶやくと、孫がすかさず「教えてあげる」と言いました。「さすが元JRのじっちゃんの子だね」と期待している、「電池がたあくさん入っているんだよ」と手を広げて自慢そうに話してくれました。

今では5歳になり、1歳の妹と2人次に会う時はどんなお話をしてくれるのか楽しみです。

★ じっちゃんの血をしっかりと受け継いでますね。

### 愛の輪からのお知らせ

1月27日は、  
ミスタードーナツ創業の日。



愛の輪は日本とアジアの地域社会のリーダーを目指す障がいのある若者に、海外での研修活動を行っています。



ミスタードーナツはこの日を「反省と感謝の日」として、毎年全国のショップ周辺で地域への感謝の想いを込めてお掃除を実施。また、この日の売上

の一部を愛の輪基金に寄付していただいています。皆さまの心のこもった献金は、障がい者リーダー育成のために大切に使用させていただきます。おいしいドーナツを食べて社会貢献。1月27日はお近くのミスタードーナツへ足を運んでみませんか？

このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。

☎ 06-6821-5270 <http://www.ainowa.jp/>

あなたのお便りや写真をお寄せください。

みなさまからお寄せいただいたお話をもとに新聞をつくってまいります。どうぞ、あなたが体験したうれしかったこと、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。

#### 送り先

〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33  
株式会社ダスキン広報部  
ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室  
e-mail:koho4@mail.duskin.co.jp

投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼をさせていただきます。



フーフー  
早く食べたいな

兵庫県塚本  
松村いつこさん



めいぐるみ  
じゃないよ～

佐賀市  
前田君代さん



年賀状用に  
ハイ、チーズ

三重県菟野町  
大橋剛夫さん

みてもらおう!

見てうれし、見せてうれし。  
あなたのお気に入りの1枚を送ってください。



神奈川県逗子市  
小澤正水さん

ねえ、  
これな～に?

相模原市緑区  
成岡直夫さん



No.419からのバックナンバーが  
下記のアドレスからご覧になれます。

<http://www.duskin.co.jp/tanemaki/>



ダスキンがあなたにお届けする  
便利でおトクな  
使える情報サイトです。

アクセスはコチラから

dduet

<https://dduet.duskin.jp/>



この新聞をお届けしているのは

株式会社 **ダスキン**

発行・編集：広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】  
お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただく場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコールセンター  
**0120-100100** [www.duskin.co.jp](http://www.duskin.co.jp)